



1月、2月は新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言で休みました。その間に冬は早じまいしてしまい春がやってきました。カワウの島には白いおしゃれな装いのカワウが増え、出たり入ったり忙しそうにしていました。風がほとんどなかったのですが、明け方に冷え込んだので空気が冷たく、チョウなどは昼近くになって少しずつ姿を見せるようになりました。帰路のたんぼ道ではノジスミレが満開でした。



カワウの雄

雌雄ともに頭部と脚の付け根の上が白く（夏羽）なります。婚姻色ともいいます。白くなる部分の広さには個体差があるようです。



ソメイヨシノ膨らむ

冬芽の大半は大きく膨らんで蕾が白く見え始めていましたが、色付いていたのはこれだけでした。



シロブチサラグモ

白い体に黒いブチがあります。側溝の巣は形が崩れていましたが通常は皿を伏せたような巣を作ります。



ヤマモモ雄花の蕾



もう少し膨らむと花粉を飛ばすようになります。いつもは4月上旬です。左:雌花は少し遅れて咲きます。



オオワラジカイガラムシ雌

コナラにいました。白い粉を吹いている雌です。裏返すと6本の黒い脚が見えました。甘露を分泌するのでアリのよってきます。右は雄です。こんなに形が違います。



テングチョウ

春先のチョウ。素早く飛び、太陽の方向に羽を広げて止まります。羽の模様が独特で、鼻が伸びている天狗のようにも見えます。(3/10 撮影)



(仮名) コナラメムレマツカサフシイガフシという名は他にあるのでマツカサを採用し、いくつも群れて付いていることを表しました。(参考:アキニレの虫こぶ名)

リョウブの冬芽膨らむ



冬芽が膨らんで芽鱗がはがれそうになってついには落ちてしまいます。下はヤナギですが赤い芽鱗が落ちずに付いたままです。



アカスジアオリングガ

この蛾は春型です。春だけでなく春と夏の2回現れます。食草はコナラの仲間です。色や模様には個体差があるようです。



トガリアシナガグモ



オオタカ

高く舞い上がって飛び去りました。ハイタカは尾の先が丸みを帯びず、直線的です。



アオジ 夏は山で過ごすので、そろそろ帰り支度中でしょうか。餌探しに夢中なのか目の前で見られました。



ミツバアケビ

いつもは3月下旬の咲くので、もう花芽が膨らんでいると思って見ていたら、となりの株は花卉を開いていました。今年は早すぎです。

植物 セイヨウタンポ、ハコベ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、タネツケバナ、フサザキスイセン、ユキヤナギ、ヒサカキ雄花とにおい、セイヨウカラシナ軸が持ち去られる、ミツバアケビ、スギ雄花、イスノキ花蕾、ヤマモモ花蕾、ソメイヨシノ・ヤマザクラの一種・リョウブ・コナラ・タブ冬芽膨らむ、マンリョウ固まって生えている、ヤマザクラ、カワヤナギ?、**昆虫** シロブチサラグモ、キタキチョウ、テングチョウ、ホソヒラタアブ、ハエの一種、ユスリカの一種、ハラビロカマキリ卵のう、ムネアカアワフキの巣、**クモ** ジョロウグモ卵のう、アシナガグモ、トガリアシナガグモ、ササグモ、**鳥** カワラヒワ群で飛ぶ、アオジ、ツグミ声、シロハラ声、ヒヨドリ声、キジバト番、ウグイス地鳴きと囀り、メジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ声、カウウ夏羽、オオバン、キンクロハジロ、カルガモ、メジロの巣、**その他** (仮名)コナラメムレマツカサフシ、イスノエダナガタマフシ、アベマキエダイガフシ、(菌)ヒラタケ(古い)

次回は、4月8日(木) 午前9時30分、水資源機構P前集合、参加費100円

